



きみの のかみ  
和歌山県紀美野町立 **野上中学校**

## eライブラリで、主体的な学習と意欲向上！ ～個別最適化された学びの実現を目指して～

野上中学校では、3年生にタブレットが一人一台整備されています。教室にある保管庫から使いたいときにすぐ取り出せる手軽さを活かして、授業内外の様々な場面で、学習に役立てられています。

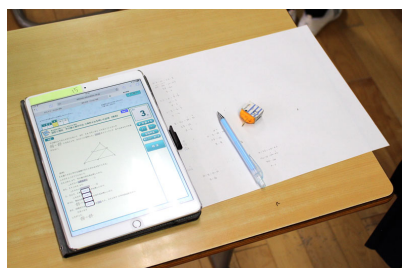
### 全員参加の補習時間で活用



生徒はタブレットの画面上で手書きのメモ機能を使い図形に補助線を書き込んだり、途中の考え方や計算を計算用紙に書き込んだりと、各自で使い分けながら問題を解き進めていました。

### 数学 単元：図形と相似 平行線と線分の比

部活動がない月曜日に「7時間目」を設け、eライブラリのドリルを使って、生徒が各自で学習を進めます。この日は「単元指定学習」の機能を使い、先生は、机間巡視と、eライブラリによるモニタリングの両方で、生徒それぞれの学習の進捗を見守りました。



▲ 計算用紙上の考え方を見返し、答えを出します。



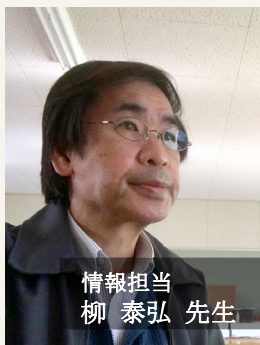
▲ タブレットだから、図形の拡大が簡単です。

### インタビュー 生徒一人ひとりが、自分に合った学習ができるように

3年生は、高校受験に向けて、入試対策問題集を購入し、活用してきました。ですが全員が同じ問題集を利用するのは、必ずしも生徒一人ひとりのニーズに合っているとはいえませんでした。

eライブラリのドリルなら、**難易度を各自で選べる点や、学習履歴を基に次の教材に展開していける点で、生徒のニーズに応える**ことができます。

今後は職員研修にも重点を置き、学習履歴の活用方法に対して全職員で共通理解を持っていきたいと考えています。



情報担当  
柳 泰弘 先生

### 楽しみながら学習し、工夫しながら理解する

eライブラリのドリルは自身のレベルアップを楽しめる良さがあり、それが**学習への積極的な姿勢につながっています**。

eライブラリは問題をただ解くだけではなく、「解説教材」「リトライ」など生徒の基礎基本を定着させるための工夫があります。それらツールの**役割を、初めに生徒にしっかり説明しておく**と、あとは生徒自身が必要なツールを選んで、理解を深めることに役立ててくれます。



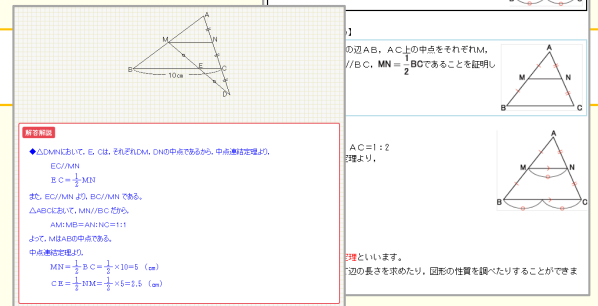
情報担当  
澤 佑典 先生

## eライブラリ活用のねらい

- タブレットで学習できるという新しさと、自身がレベルアップしていくようなeライブラリの楽しさで、学習への意欲を高める。
- 難易度を選べる、学習履歴を残せるなど、個に応じた活用ができる。
- 間違えた問題やわからない問題は、ていねいな解説教材を読んでやり直しに活かし、定着につなげる。

## 生徒の様子

- 間違えた問題では、計算用紙に書いた自分の考え方や解答解説を見比べながら、つまずきを確認する。
- 難しい問題も、解説教材を読んだり、先生に質問したりしながら答えを出す。
- 問題を進めて自信がつくと、「リトライをどれだけ少なくできるか」を友達と競いながら解いていく。



▲ 詳しい解説があるから、間違えてもしっかり確認できます。

## 先生の工夫

- 取り組む教材は、教科と単元のみ指定したり、定期テスト前には生徒自身に計画を立てさせたりと、都度変えている。
- 手元のタブレットで生徒一人ひとりの学習の進捗をリアルタイムに把握する。



▲ 先生は手が止まっている生徒をフォローします。

## インタビュー 自学する意味を考え、目的を持って取り組んでほしい



生徒には、eライブラリの活用を通して、主体的に学ぶという学習力を身につけてほしいと思っています。**自分に必要のところを選んで学習できるか、わからないときでも解答解説を見て習得していけるか**は、いずれ「勉強ができる・できない」の分かれ目となるでしょう。

本校では月曜日の「7時間目」に固定して全員参加の補習を実施し、生徒が主体的な学習に向き合う時間を保障しています。

3年生は、一人一台のタブレットを活用してドリル学習を行います。1, 2年生には、タブレットは今後行き渡るので、現在はパソコン教室を隔週交代にしてドリル学習を行い、パソコン教室にあたっていない週にはeライブラリのプリント教材で学習しています。学習の手段が何であれ、生徒には自学する意味について考え、目的を持って臨んでほしいと期待しています。

eライブラリには、**自分のレベルを高めていく楽しさを感じながら学習できる**という良さがあり、生徒の学習意欲は高まります。主体的に学ぶ姿勢をより身につけるためには、解答解説が詳しく、ていねいな教材でなければなりません。そこでeライブラリには、常に改善・進化し続けることを望んでいます。



教頭  
中家 敦司 先生